

Standard



国土交通省 建築BIM推進会議 標準化タスクフォース

標準属性項目リストに関する概要書

2026年03月13日

Ver.2.0

はじめに

国土交通省 BIM推進会議 標準化タスクフォース、属性項目の標準化における成果物として「標準属性項目リスト」「属性項目の解説書」の改訂版を提示する運びとなりました。

建設業界におけるデジタル化と効率化を推進し、共通の基準となるBIMの属性情報ガイドラインを提供することを目的として提示いたしました。

皆様のご協力と知恵の結集により、この成果物が業界標準として広く受け入れられるとともに、議論のたたきとして意見を出し合ってまとまっていくことを期待していますので、何卒、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2026年03月13日
標準化タスクフォース

頁	改訂Ver	タイトル	改訂内容
-	Ver1.0	初版	初版発行
11	Ver2.0	用語集の別版化	付録の用語集を別版として発行、本書からは削除 構成変更に伴い、p11「標準属性項目リストの構成」を修正
20	Ver2.0	3章 標準属性項目リストの使用方法 の追加	標準属性項目リストの使用イメージ具体化のため、「3章 標準属性項目リストの使用方法」を追加
-	Ver2.0	Ver1.0「2章 これまでの検討・作業概要」の削除	概要書のシンプル化のため、Ver1.0「2章 これまでの検討・作業概要」を削除、検討・作業概要については環境整備部会報告資料を参照
09	Ver2.0	スコープ	外部データの位置・ユースケースのフィルタなど、各項目との関連性を修正
15	Ver2.0	誤解をされやすい項目：①ヘッダの構成-フィルタセット	フィルタセットの使い方に対し、より理解を深めてもらうため、今年度概要書の記述内容を見直した（加えて、用語集にその記述を追加）

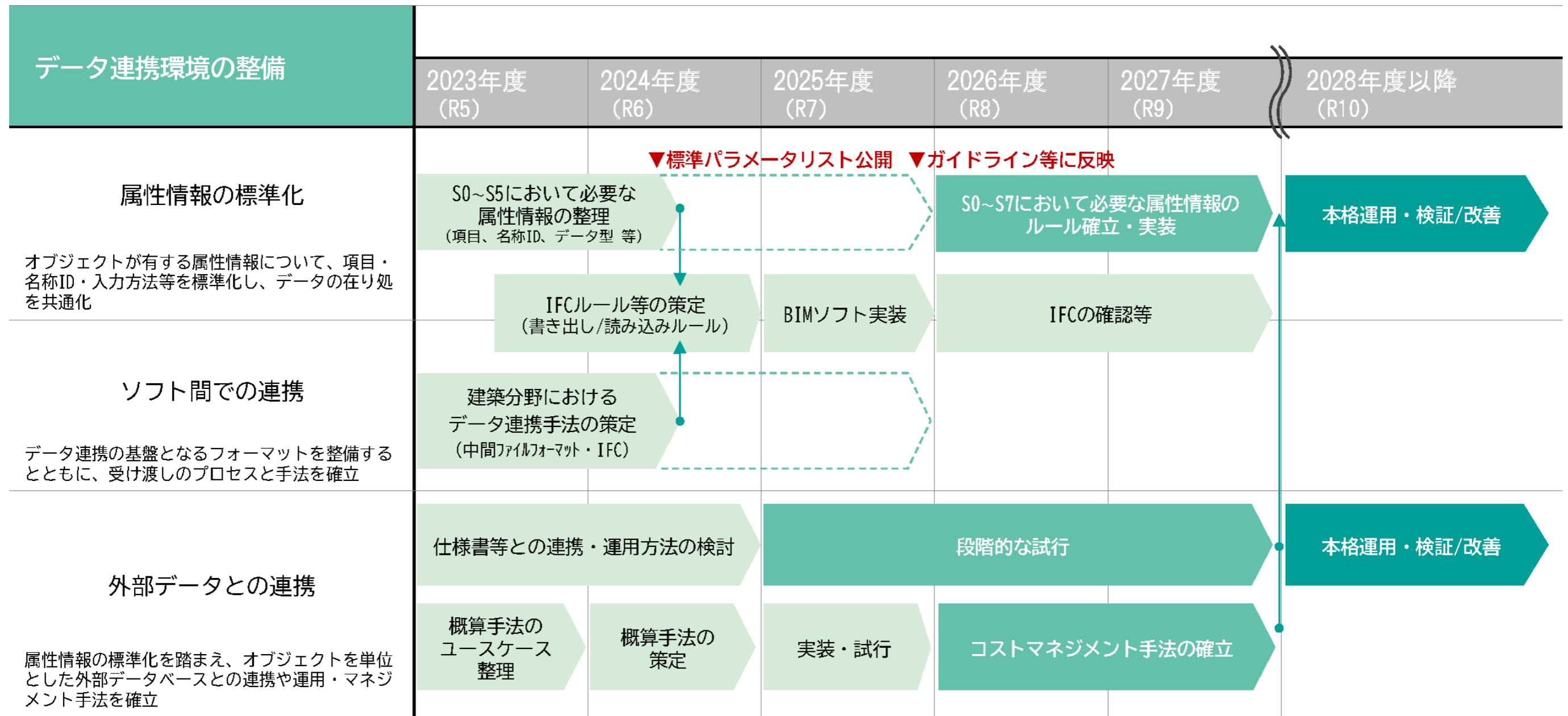
目次

1. 標準化タスクフローの目的 ----- 04
2. 標準属性項目リストの位置付け ----- 10
3. 標準属性項目リストの使用方法 ----- 20

1 | 標準化タスクフォースの目的

BIMの将来像と工程表 – データ連携環境の整備

データ入力ルール等の整備（データの標準化）とデータの受け渡しルール等の共通化を進めることで、設計・施工・維持管理等プレイヤー間でのBIMデータの横断的活用を進め、建築分野における生産性向上を実現する。



引用：第11回BIM/CIM推進委員会「建築分野における検討WG（建築BIM推進会議）の活動状況について」令和6年2月22日

用語の整理を行った結果、「標準パラメータリスト」ではなく、「標準属性項目リスト」と名称を改めました。

背景

BIMの普及が加速

国内におけるBIMの普及が加速するにつれて、BIMデータの利活用による業界の枠を超えた効率化や生産性の向上に注目が集まる。



BIM標準の重要性

業界を代表する様々な団体がBIMデータの利活用に向けて、標準ルールやガイドラインを作成して、BIMデータの利活用を推進。



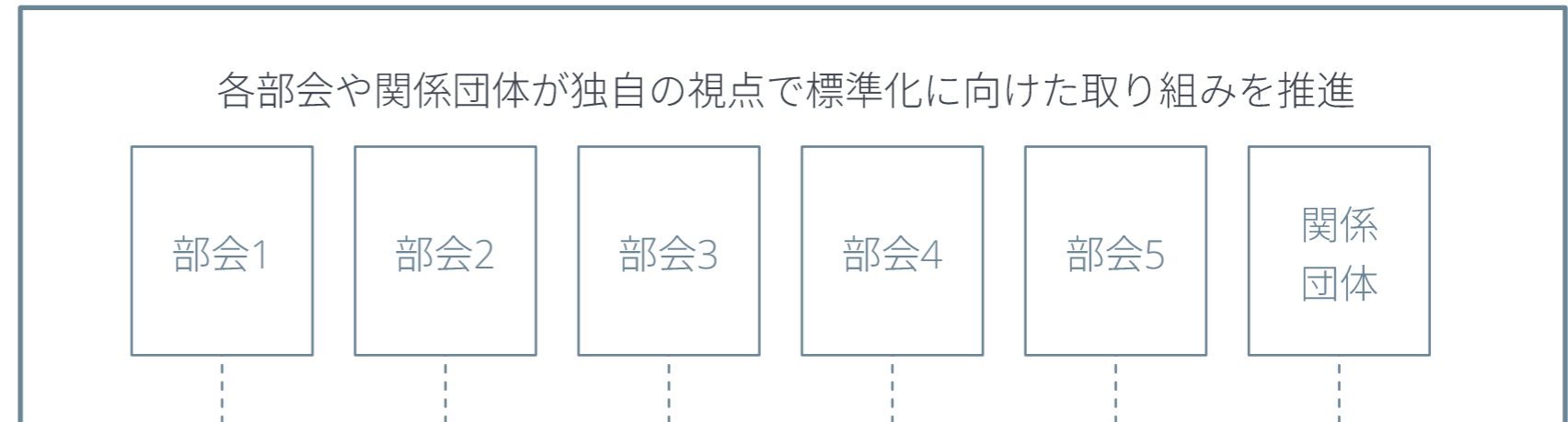
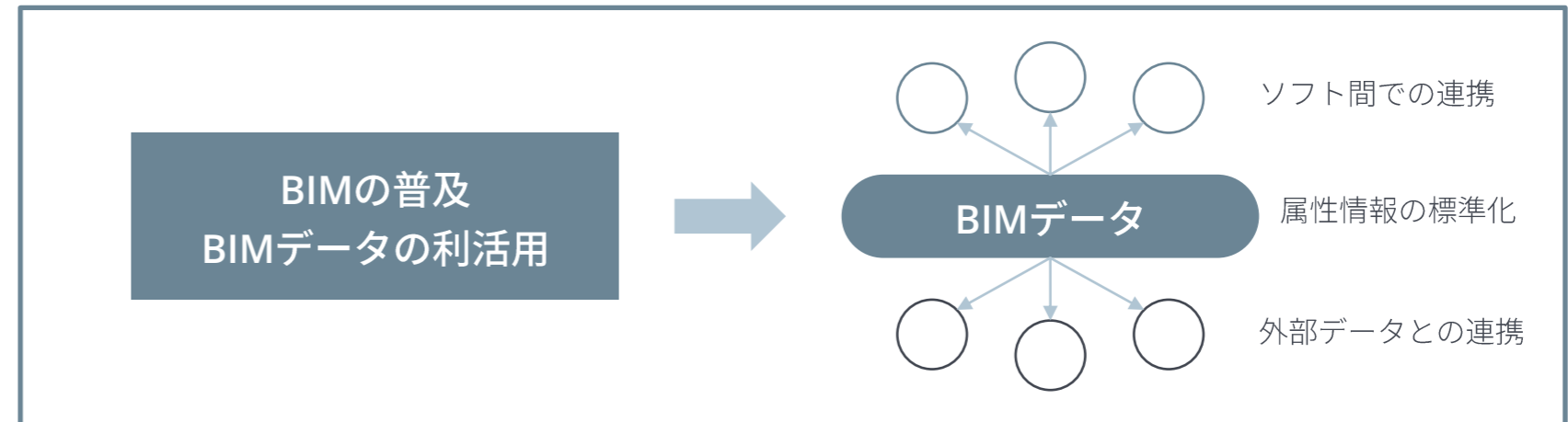
BIM標準の整合性

国内におけるBIM標準ルールやガイドラインの整合性を取り、広い範囲でBIMデータを利活用するための横断するタスクフォースを設立。



BIM標準指針の例示

BIMをデータベースとして利活用するための、属性情報の標準化、ソフト間での連携、外部データとの連携の指針などを検討。



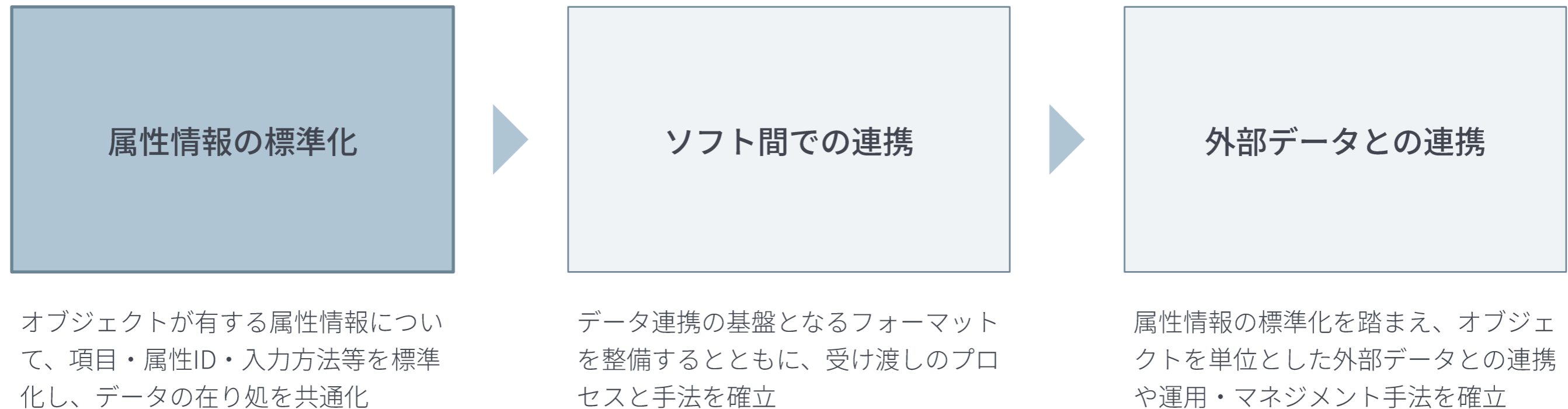
目的

本タスクフォースにおける「標準化」とは

建築生産のフローすべてをルールで雁字搦めにするのではなく、必要もしくは当たり前な部分を属人化されることなく共通認知できるようにするための**参照点**として整理することを目的としています。

そのため、これまで各企業で進めていた標準化の取り組みを阻害するものではありません。

各企業においては引き続き標準化の取り組みを進めていただきますようお願いいたします。



「標準属性項目リスト」は、「用語の定義」と「用語のマッピング」を目的としており、辞書的な活用を可能とするものです。将来的には、使い方の例示（ユースケース）を増やして、ソフト間及び外部データとの連携の指針として提示する予定です。

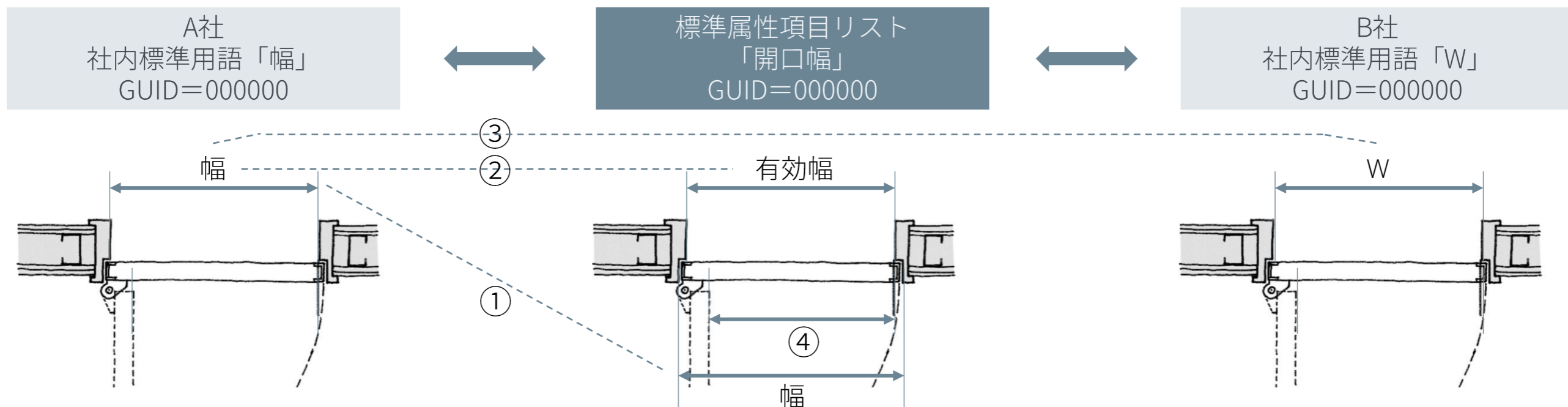
辞書について

本タスクフォースにおける「辞書」とは

今回提示する「標準属性項目リスト」は、各分野で使用されている用語を整理し、属性情報を利活用する際の辞書的な位置付けとして意匠・構造・設備を網羅的に取りまとめています。



- 用語の定義＝標準属性項目リストの用語（属性項目名）の定義（説明・備考等）を確認し理解できるもの。
- 用語のマッピング＝標準属性項目リストの属性IDを介し、組織間の用語のマッピングが可能になる

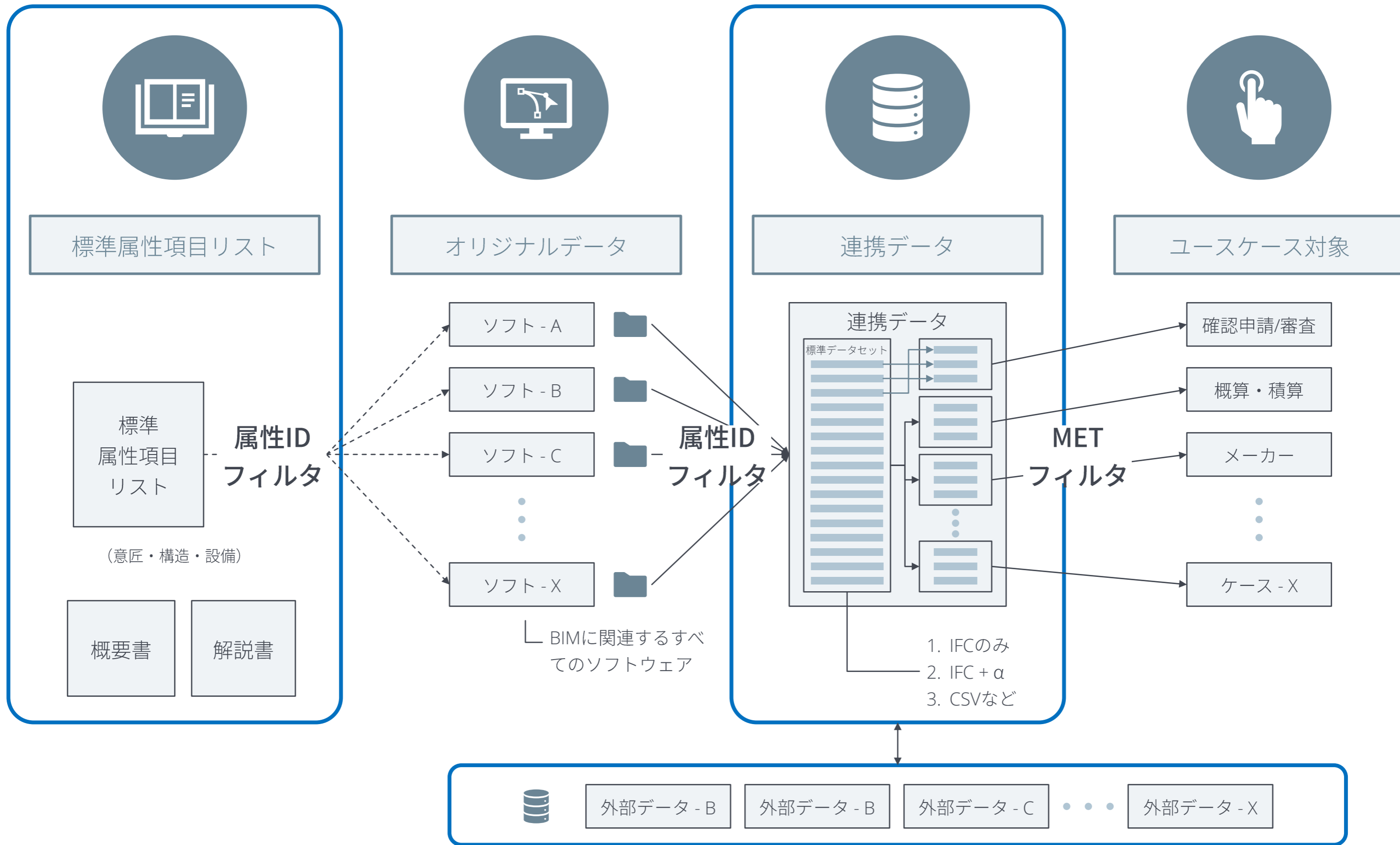


- ① 同じ「幅」という用語を使っているが、示している場所が異なる。
- ② 標準属性項目リストの「開口幅」の解説から、A社の社内標準用語の「幅」であることが分かる。
- ③ 標準属性項目リストの属性IDを介することで、A社の「幅」がB社の「W」であることが分かる。

□より詳細な説明は「解説書」にて記載を行いますが、すべての属性に対して検討を行ったわけではないため、④のように標準属性項目リストに記載のないものもあります。

スコープ

以下のスコープで検討を進めています。今後の連携データの検討においては、フォーマットの検証とともにサンプルモデルをベースに検討を進めています。完成ではなく継続して更新するものであり、広く使われることで大きな効果を発揮します。



2 | 標準属性項目リストの位置付け

標準属性項目リストの構成

属性情報の標準化として、網羅的且つ辞書的に使用する「標準属性項目リスト」の整備を進めてまいりました。アウトプットとして、「標準属性項目リスト」だけでなく、各属性項目の説明をまとめた「属性項目解説書」と全体の流れをまとめた「概要書（本書）」及び使用している「用語集」の4つのドキュメントを公開いたします。

概要書



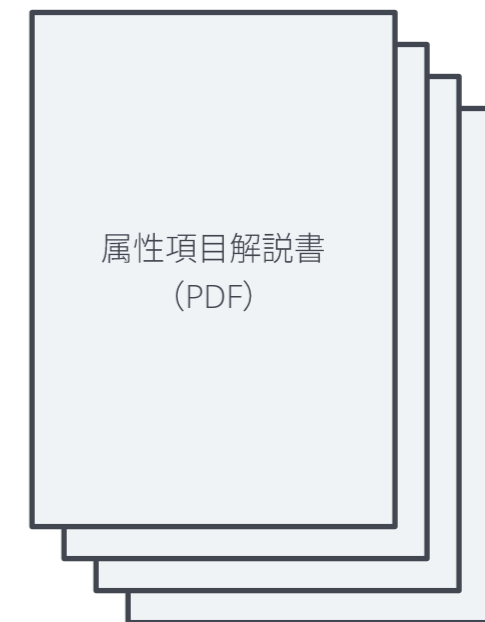
(本資料)

標準属性項目リスト



- 標準属性項目リスト
ロングリスト
 - 統合版（意匠/構造/設備）
 - 施工・製作版
- 付属
 - 簡易使い方解説
 - 改訂説明・凡例

属性項目解説書



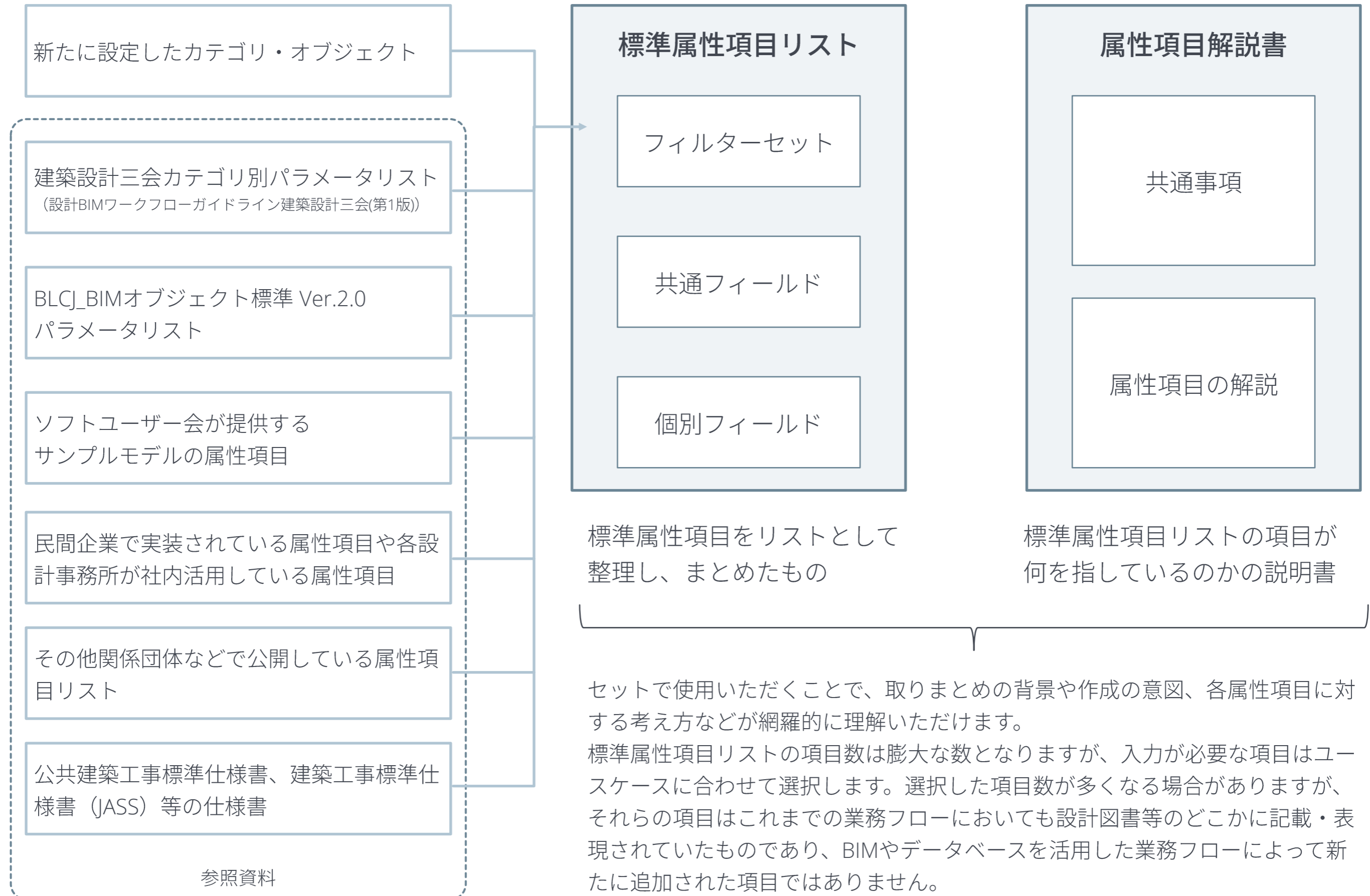
- 解説書
 0. 共通
 1. 意匠
 2. 構造
 3. 設備

用語集



□「施工・製作」における工種別は、ユースケースの一部としてとりまとめるため、案（Ver1.0）ではユースケースの参考として提示いたします。

標準属性項目リストの作成の前提と解説書



標準属性項目の前提条件 | 誤解をされやすい項目

事前に協力団体から意見聴衆を実施し、頂戴したご意見を元に、特に誤解されやすい内容について補足説明をさせていただきます。

1

ヘッダの構成

標準属性として必要な「共通フィールド」とリストの利便性を向上させるための「フィルタセット」から構成されています。

2

属性ID

属性項目を一意に識別するために属性IDを割り振りを行いました。属性IDは識別するための値のため、その値自体は意味をもちません。

3

分類体系

標準属性項目リストは属性項目の標準化を行うもので、分類体系を規定するものではありません。

4

部位別と工種別

部位別に整理したものを工種別に振り分けていくため、その紐づけに関しては今回の成果物には含まれません。

誤解をされやすい項目：① ヘッダの構成 - 共通フィールド

属性項目リストを構造化データとしてデータベース活用できるよう、ヘッダを検討チーム間で統合しています。
共通フィールドが標準属性項目の共通となる部分であり、その後に各検討チーム毎に必要なフィールドを結合しています。

検討チーム	欄外1-1	欄外2-1	区分1	属性ID	属性項目名 (日本語)	属性項目名 (英語)	データタイプ	単位	入力値 (参考例)	属性項目説明	個別フィールド
共通	ドア		識別情報		建具形式		文字列				
共通	ドア		識別情報		建具形式_説明		文字列		欄外欄8		
共通	ドア		識別情報		建具種類		文字列		SO,LD,W,O,S,U,D		
共通	ドア		識別情報		建具番号		文字列		101		
共通	ドア		識別情報		内外区分		選択項目		内部/外部		
共通	ドア		測定情報		測定		文字列				
共通	ドア		寸法情報		高さ		長さ		900		
共通	ドア		寸法情報		必要有効高さ		長さ		2000		
共通	ドア		寸法情報		必要有効幅		長さ		900		
共通	ドア		寸法情報		幅		長さ		1800		
共通	ドア		寸法情報		有効高さ		長さ		2000		



分類体系を規定するものではなく、特定の属性項目を抽出するために使用するフィルタセットです。

すべての検討チームにおいて、共通する基本的なフィールドです。下記フィールドにて構成しています。

検討チームごとに共通フィールド以外に必要とされる個別のフィールドです。

共通フィールド

分5	属性ID	属性項目名 (日本語)	属性項目名 (英語)	データタイプ	単位	入力値 (参考例)	属性項目説明	個別フィールド
	1234567890...	幅	Wide	長さ	mm	1800	建具寸法の幅を示す	...

① 属性ID・属性項目説明

- 属性項目に対し、固有で付与するIDであり、属性項目説明にてIDの位置づけを判断するフィールド

② 属性項目名 (日本語・英語) ・データタイプ・単位・入力 (参考例)

- 属性項目の設定基準となる最低限のデータセット
- 名称については日本語と英語を設定するが、オリジナルデータの属性項目名称との関連性はなく、任意の名称として扱う
- 英語表記については、既にあるものを採用 ※検討チーム間での統合・精緻化について別途今後の対応を検討中のため、今年度は未掲載

誤解をされやすい項目：① ヘッダの構成 - フィルタセット

フィルタセットは閲覧性及び検索性を高めるために付与しているもので、分類体系を規定するものではありません。

フィルタセットは現在、単一の記述内容に統合しており、Excelなど表形式で管理する目的において有効です。一方、抽出する目的は様々であり、目的に応じてヘッダ情報は異なることも考えられます。現在の表示は統合されたヘッダ情報となっておりますが、将来、標準属性項目リストがデータベース化された際には、目的に応じて複数のヘッダが登録出来る形を想定しています。

検討チーム	階層1-1	階層2-1	区分1	属性ID	属性項目名(日本語)	属性項目名(英語)	データタイプ	単位	入力値(参考例)	属性項目説明	検索フィールド
意匠	ドア				建築形式	Building Form	文字列				
意匠	ドア				建築形式_説明	Building Form_Expl	文字列		欄外		
意匠	ドア				建築番号	Building No.	文字列		SO,LD,WO,SUSD		
意匠	ドア				内外区分	Ind/Ext Dist.	文字列		101		
意匠	ドア				内外区分	Ind/Ext Dist.	文字列		内部/外部		
意匠	ドア				高さ	Height	長さ		900		
意匠	ドア				必要有効高さ	Reqd. Eff. Hgt.	長さ		2000		
意匠	ドア				必要有効幅	Reqd. Eff. Wd.	長さ		900		
意匠	ドア				幅	Width	長さ		1800		
意匠	ドア				有効高さ	Eff. Hgt.	長さ		2000		

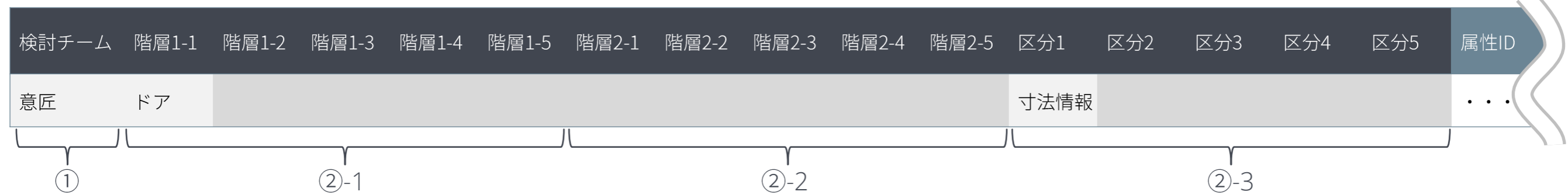


分類体系を規定するものではなく、特定の属性項目を抽出するために使用するフィルタセットです。

すべての検討チームにおいて、共通する基本的なフィールドです。下記フィールドにて構成しています。

検討チームごとに共通フィールド以外に必要とされる個別のフィールドです。

フィルタセット



① 検討チーム

- 属性項目を検討したチーム名（意匠・構造・設備）…今回は、プロジェクト情報など建物の基準となる属性項目についても検討したチームの記載

② 階層1-1～5・2-1～5・区分1～5

- 属性項目の閲覧性及び検索性を高めるために付与した階層および区分設定
 - ②-1：オブジェクトの種類を示す階層…属性項目が何かの種類に限定されていないものが多いため、階層1までの設定が多い
 - ②-2：オブジェクトの部分を示す階層…階層1にてどこを示しているか判定可能な場合は、必ずしも値が入力されてはいない
 - ②-3：オブジェクトの分類とは別に、属性項目の特性に合わせて仮に区分を定めたもの

誤解をされやすい項目：② 属性ID

標準属性項目リストを、網羅的な辞書データベースとして広く利活用するために、インデックスを属性IDとして規定します。これにより、各社で属性項目名称は自由に設定することができるため標準化への制約を少なくすることができると考えています。属性IDについては、検討チーム間での精緻化を行っておりますが、一部検討項目が残っているため、今後も更新の可能性がります。

共通フィールド

属性ID	属性項目名（日本語）	属性項目名（英語）	データタイプ	単位	入力値（参考例）	属性項目説明
1234567890・・・	幅	Wide	長さ	mm	1800	建具寸法の幅を示す

属性ID	属性項目名（日本語）	入力値
1234567890・・・	幅	1800
属性ID	属性項目名（日本語）	入力値
1234567890・・・	建具_幅	1800

属性項目名をインデックスにすると表記の統一が必須となり制約が多くなる
属性項目名の表記ゆれにより、異なる属性項目として認識されてしまう

属性IDをインデックスにすることで、データベース的に利活用する場合の制約が少なくなる
属性IDで一意に識別することで、ソフトや入力者が異なる場合でも同じ属性項目として認識される

誤解をされやすい項目：② 属性ID

属性IDの付与について

現状の「標準属性項目リスト」において、各チーム間での重複をチェックし、「BLCJオブジェクト標準V2.0」などの標準仕様において、既に規定されているIDは属性IDに転記し、その他の全属性項目に属性IDを付与いたします。

属性項目の重複チェック

整合チェックチームによる横断的な精査

意匠	柱	耐火性能	構造	S柱	耐火性能
意匠	柱	X方向幅	構造	RC柱角形	柱頭X幅
意匠	昇降設備	速度	設備	ELV	速度
意匠	窓	気密性能	施工	AW	気密性能

1. 各検討チームにおける属性項目で重複していると思われる項目を全て抽出
2. 重複している項目の内容を精査し、重複していると思われる項目を全てリストアップ

重複項目の精査

リーダー会にて共有・検討

統合する

同じ属性を表す項目について統合して重複を避ける

両方に残す

異なる属性を表す項目などは双方に残して理由を記載する例) 柱幅

意匠：仕上げを含む幅を表す
構造：躯体の幅を表す

1. 重複項目の精査
 2. 対応方法の確定
- 対応内容
- ・ 統合する物
 - ・ 両方に残す物

既存IDとのマッチング

BLCJ V2.0などのIDを属性IDとマッチング

標準属性項目リスト		BLCJオブジェクト標準	
属性ID	属性項目名	属性ID	属性項目名
12346	耐火性能	12345	速度
	X方向幅	12346	耐火性能
12345	速度	12347
	気密性能	12348

1. BLCJオブジェクト標準で規定されている属性IDを対象項目にマッチングを行う

属性IDの付与

全ての属性項目に属性IDを付与

標準属性項目リスト	
属性ID	属性項目名
12346	耐火性能
00123	X方向幅
12345	速度
00124	気密性能

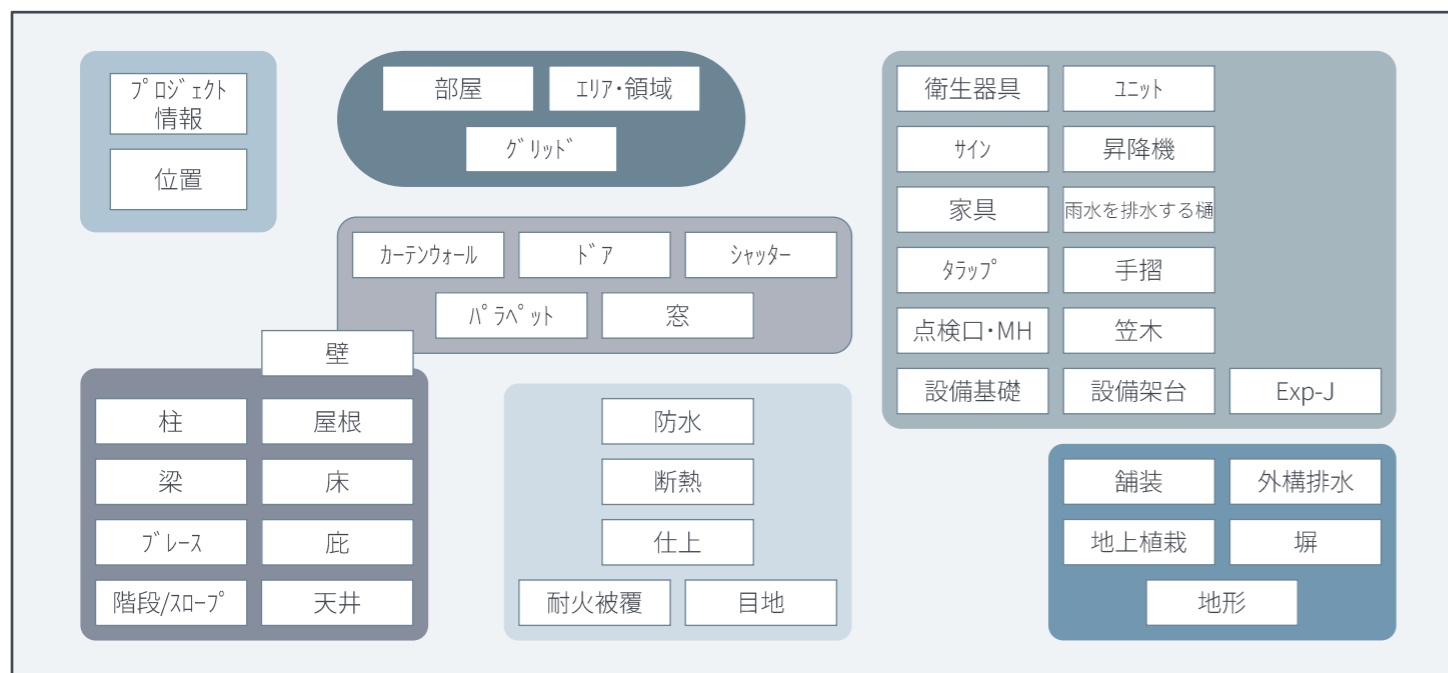
1. 属性IDが空白の項目に対して、ユニークなID番号を乱数的に発生させて入力を行う

□意匠・構造間で一部精緻対応いたしましたが、今後もチーム間での精緻化は継続して更新される予定

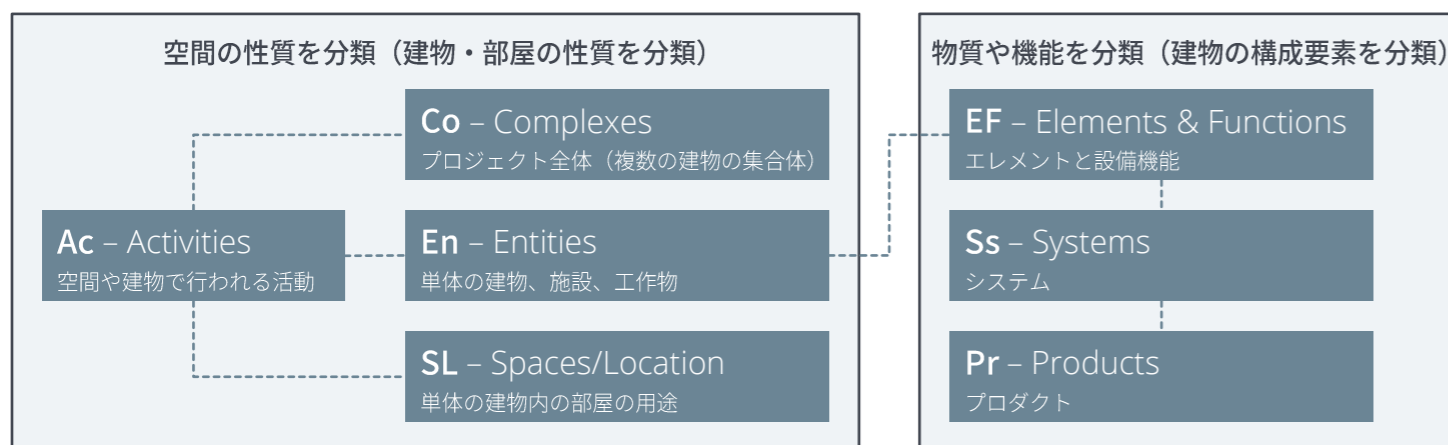
誤解をされやすい項目：③ 分類体系

建築物や建築関連の国際的な分類体系としては、「Uniclass」・「OmniClass」など目的や国・地域によって異なる複数の分類体系が存在します。標準属性項目リストの部位別の区分を「Uniclass」などの分類体系に当てはめた場合、重複するものなどが存在するため、標準属性項目リストでは、現時点では分類体系の規定は行っておりません。

標準属性項目リストの部位別の一例（意匠）



(参考) Uniclassにおける分類体系



標準属性項目リストの部位をUniclassにマッピング

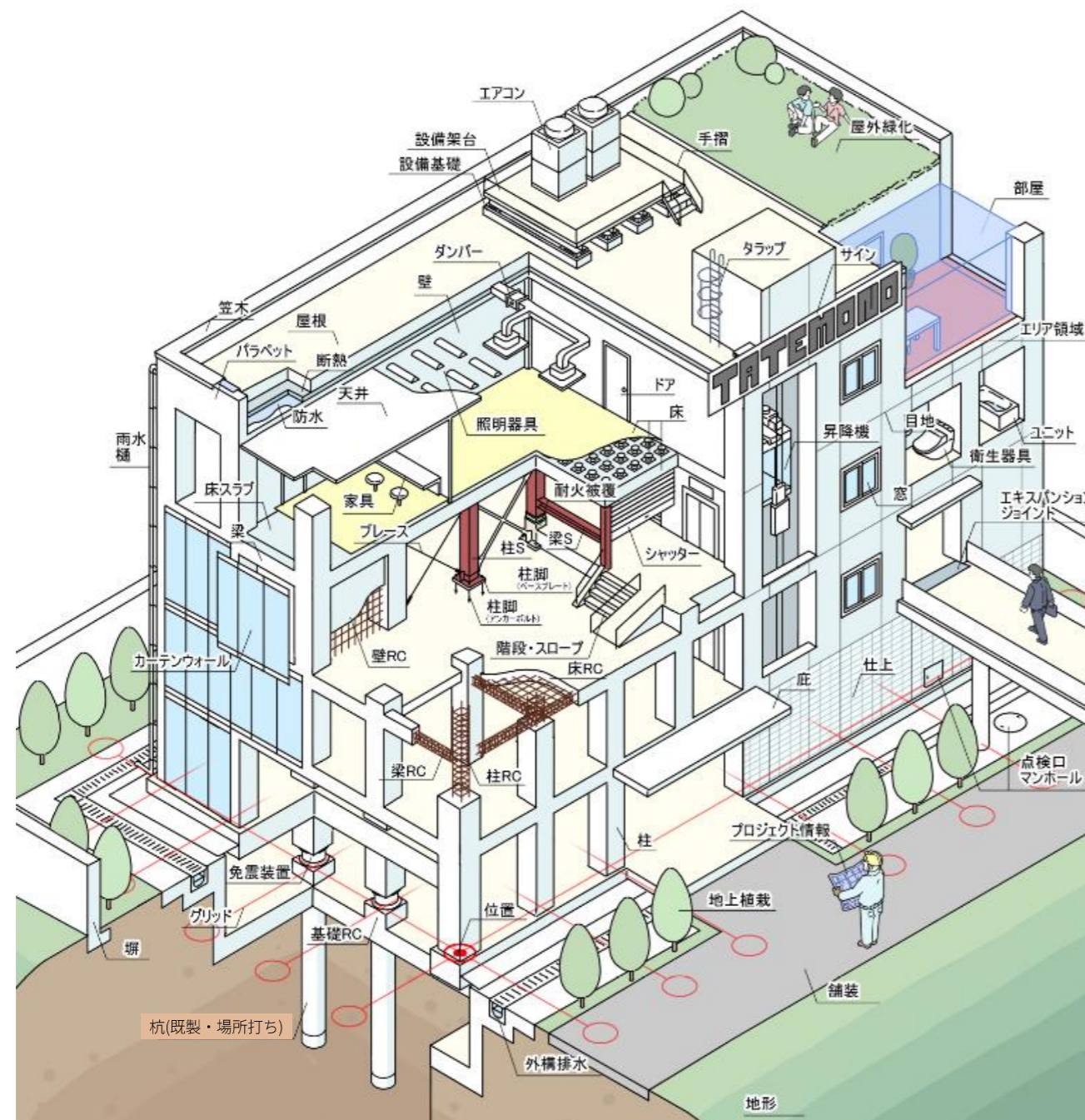
SL	部屋
EF	パラペット
構造フレーム	柱 仕上
	梁 耐火被覆
垂直面材	壁 カーテンウォール ドア 断熱 塀 手摺
	庇 シャッター 窓 仕上 点検口・MH
水平面材	床 防水 点検口・MH 外構排水
	屋根 断熱 雨水を排水する構 舗装
Ss	天井 仕上
	防水・防湿部材 防水 断熱
垂直移動経路	階段/スロープ タラップ
ユニット	ユニット 衛生器具 サイン 家具
植栽	地上植栽 舗装
昇降機	昇降機
Pr	ブレース 目地 笠木 Exp-J 設備架台 設備基礎
PM	プロジェクト情報
PC	エリア・領域 グリッド 位置
Zz	地形

赤字：重複して使用される項目

誤解されやすい項目：④ 部位別と工種別

施工段階における専門工事会社やメーカーへのデータ連携は、意匠・構造・設備検討チームが纏めた設計段階における標準属性項目リストを活用する重要なユースケースの一つです。

一方で、施工段階においては専門工事会社やメーカーを工種別に区分けして業務を進める事が多いため、施工における属性項目リストを検討する上では工種別での整理が必要です。現状、属性項目における部位別と工種別の紐づけについて検討を進めている所であり、その取っ掛りとして「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）令和4年版」の章名をベースに施工・製作段階（S5）に必要な属性項目の収集を行っています。

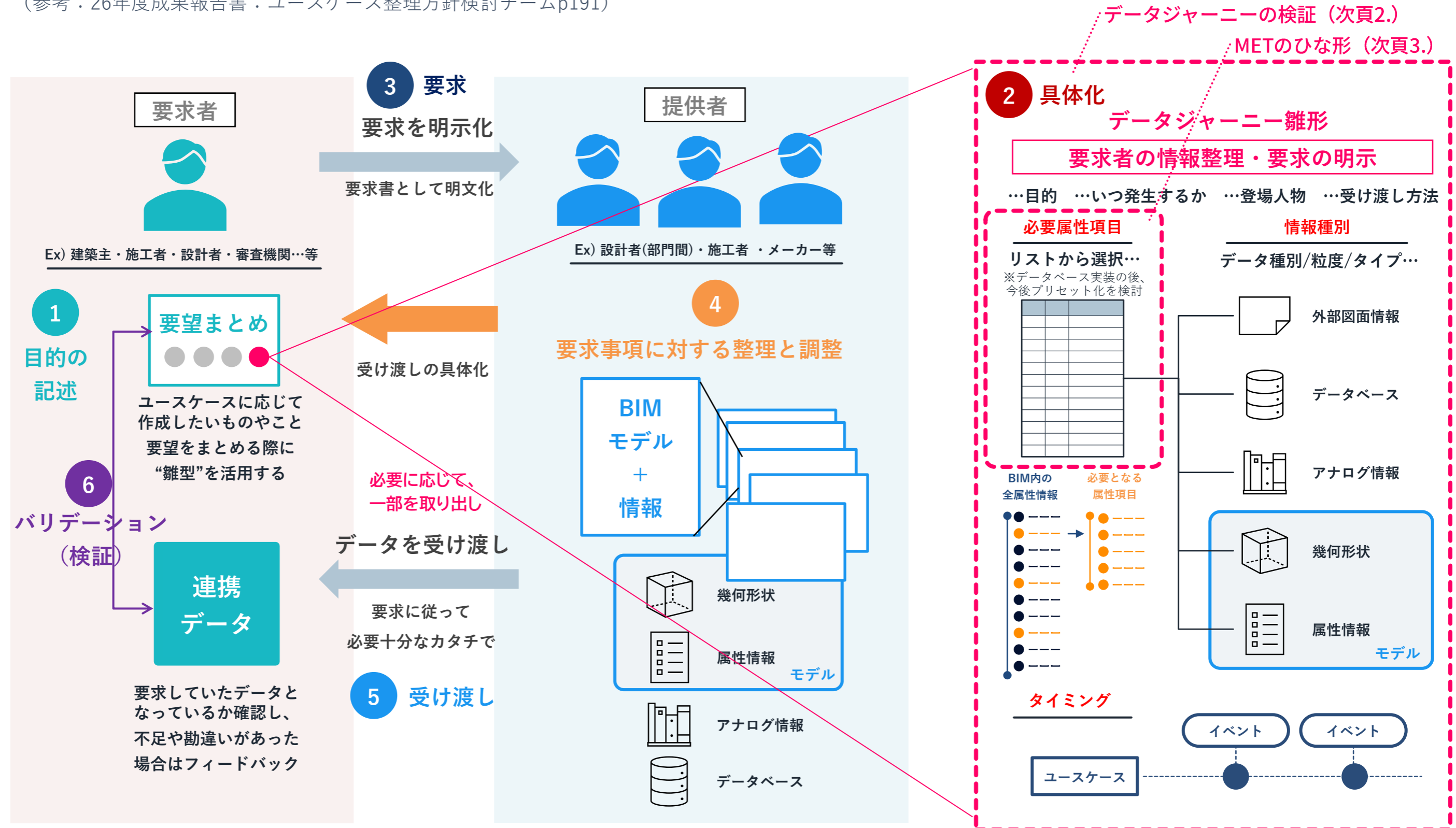


3 | 標準属性項目リストの使用方法

ユースケースにおける連携データの要求と受け渡しの流れイメージ

ユースケース＝目的ごとに受け取る側の要求を明確に示す必要がある。ただ現状は明確に提示する手立てが不足している。ユースケース検証を踏まえて、データやり取り時のフォーマット”雛型”として整備し活用することで、**明瞭な記述のもと、関係者間での齟齬をなくし、合意してやりとりできる環境を整備したい。** 部門間での取り決めやEIRの一部として想定。

(参考：26年度成果報告書：ユースケース整理方針検討チームp191)



データ受け渡しにおける標準属性項目リストの使用イメージ

1. ユースケースの選定

誰が情報を使用してどんな業務を行うかというユースケースを選定する
(例) 積算担当者が内訳明細書を作成するために利用する

2. データジャーニーを通じた要求項目の整理

必要な情報種別などを確認しながら、属性については標準属性項目リストから利用する情報項目をフィルタを使用して抽出するなど整理し、特定する

3. METを作成する

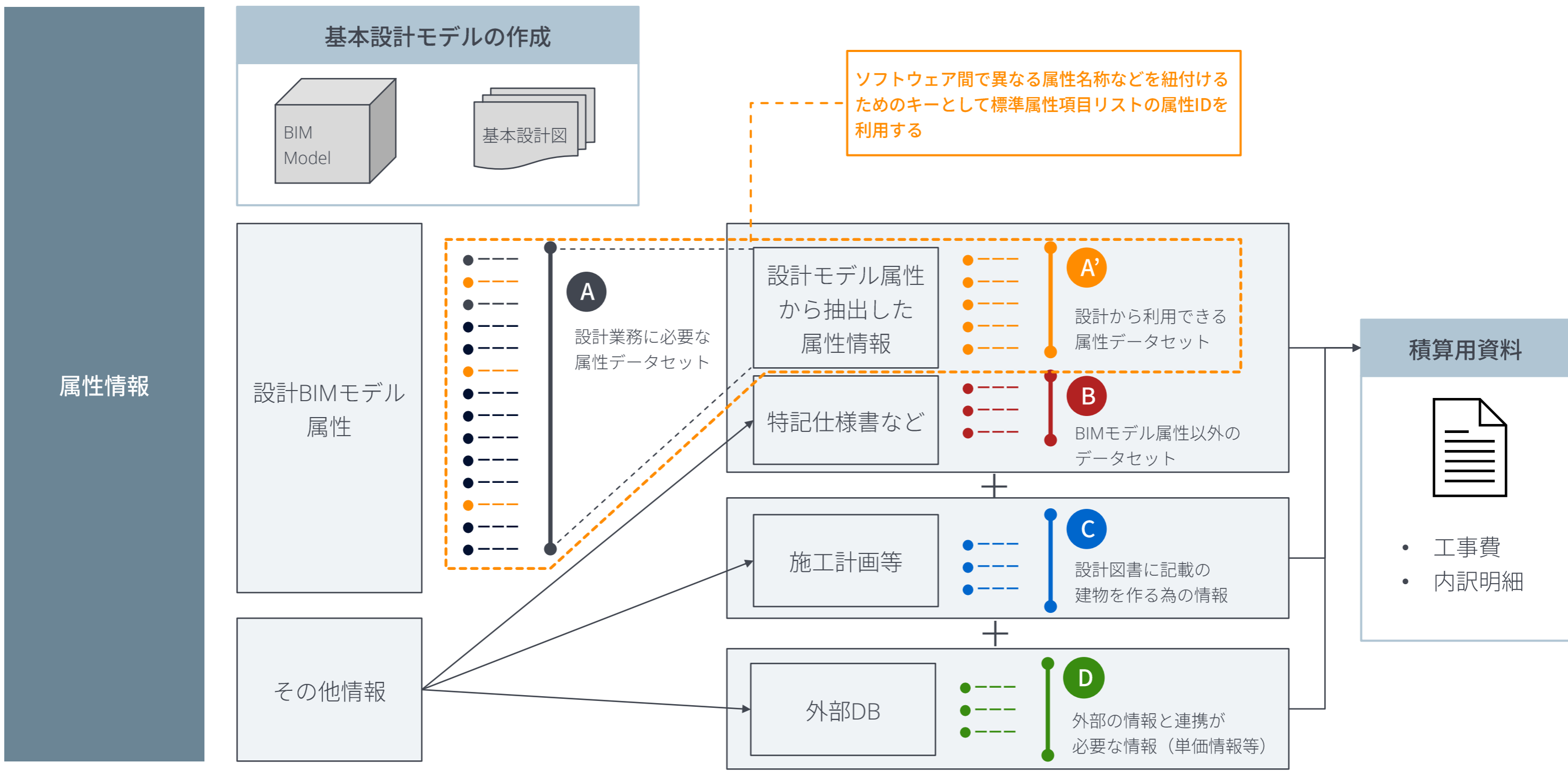
必要な標準属性項目に対して、ステージや役割分担などの情報を付与し、METを作成する

一度作成したら同一のユースケースで使用可能

4. METに従って情報を付与する

データジャーニー一例 | S2における積算ユースケース

ユースケース	設計モデルから積算業務に連携する	
ステージ	S2：基本設計	
ロール	設計者（意匠・構造・設備 他）	積算担当者
ソフトウェア	BIMソフトウェアA	表計算ソフトウェア / 積算ソフトウェアA



具体的な使用イメージ例 | フィルタにより抽出

フィルタ：必要な情報を抽出するために階層や区分を記述しており、ユースケースに対して必要な情報が抽出可能なように使うことを想定している。例えば積算での利用を想定した場合に、以下の図に示すような内訳明細（2024年度標準化TF報告書参照）では、**S2段階で必要とする情報**と、**S4段階で必要とする情報**が異なることがわかる。これを属性情報に置き換えると、S2段階では間仕切りの情報は「軽鉄間仕切り（一般）」を表す**符号**「L1」を必要としており、S4段階ではこの**符号**「L1」の仕様情報として、スタッドや開口補強、石膏ボードの各概要に示される詳細項目を必要としていることがわかる。

建築工事—内部仕上工事—内訳明細					フィルタ セット▼	属性ID	属性項目名 (日本語)	データ タイプ	単位	入力値 (参考 例)	属性項目説明	S2 積算	S4 積算
科目	中科目	小科目 (細科目)	細目	摘要									
S0	S1	S2	S4		数量								
内部仕上工事													
	間仕切												
		軽鉄間仕切（一般）L1										A	A
		金属：軽鉄間仕切	65型 @455	延床面積									
		開口補強	65型用	間仕切面積	m2								
		内外装：石膏ボード	T12.5+12.5 目地処理共	間仕切面積	m2								
		軽鉄間仕切（一般）L2		間仕切面積	m2								
		金属：軽鉄間仕切	65型 @455	間仕切面積	m2								
		開口補強	65型用	間仕切面積	m2								
		内外装：石膏ボード	T12.5 目地処理共	開口補強長さ	m								
		耐火遮音間仕切（性能）L3	S12・WI	間仕切面積	m2								
		金属：軽鉄間仕切	65型 @303	間仕切面積	m2								
		開口補強	65型用	間仕切面積	m2								
		内外装：強化石膏ボード	T12.5+12.5 目地処理共	開口補強長さ	m								
		内外装：グラスウール	24kg/m2 T50	面積									
		内外装：四周シール		面積									
				長さ									

内部仕上工事—間仕切工事	内訳明細
S2内訳 明細細目	S4内訳 明細細目

合成単価

S4段階の積算に必要なとされる詳細項目は、標準属性項目リストのうち、「認定番号」や「下地_防火性能」、「耐火性能」などから算出することが可能なため、S4段階のフィルタには、S2段階のフィルタにこれらの属性が加わる。

属性ID	属性項目名 (日本語)	データ タイプ	単位	入力値 (参考 例)	属性項目説明	S2 積算	S4 積算
88b34f75-58b3-4417-9dac-2196e86530b2	符号	テキスト		L1	壁の種別分けをするための符号を示す	A	A
0e80e35d-74e7-4426-8c86-b188e5c90a2a	認定番号	テキスト		FP000BP-0000	耐火、遮音等の認定番号を示す		A
5a2e2885-9a74-42bf-89d8-e4e54decf4de	容積	実数	m3	2	全体の容積を示す		
28f0598d-4597-4ec1-bb1a-ff8d36e0ed0c	下地_防火性能	テキスト		準不燃	下地材の防火性能を示す。		A
5d7c8afa-a0ce-4fe5-93ee-43f509c1365f	仕上げ_種類	テキスト		ビニールクロス	仕上げ材の種類を示す		
7744471d-fcdf-40fe-86a5-f406b2613b2f	仕上げ_防火性能	テキスト		準不燃	仕上げ材の防火性能を示す。		
c1ad713b-0d59-4455-abec-1bb643da2463	遮音性能	テキスト		TLD-70	壁の遮音性能を示す		
342f4fe6-a8c7-4f8b-be43-28e9cc01b4f6	耐圧性能	実数	N/m ²	1000	風圧やガス系消火設備等の防護区画等で必要な耐圧性能を示す		
154efc47-5313-4b82-9050-8a627e160356	耐火性能	テキスト		1時間耐火	耐火性能を示す		A
162f50f0-2ce3-46c9-83b4-df29dfef4154	耐力区分	テキスト		耐震壁	構造体の耐力区分を示す		
5006f544-7c8b-45fb-a782-8fbd7e7ddc4c	熱貫流率	実数	W/m ² ・K	0.3	熱貫流率を示す		

よろしくお願ひいたします

標準化タスクフォース